

令和5年度 アドバンス助産師交流研修会

日 時：令和5年7月29日（土） 9:30～12:30

場 所：鹿児島県看護協会

目 的：産後うつ等の病態の理解と助産師のケアを深め、今後の活動につなぐことができる

対 象：助産師・アドバンス助産師・産科看護師

参加者：47名（会場とZoom）

講演「産後うつ等の病態の近いと助産師のケア」

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 社会行動医学講座 精神機能病学分野

助教 崎元 仁志氏

（内容）・周産期の精神症状について

- ・虐待・ボンディング障害
- ・切れ目のない支援のために
- ・対応の注意点



講演「コロナ後の助産ケアを再考する 今、あなたにできることは？」

鹿児島大学医学部保健学科 看護学専攻 成育看護学講座

准教授 若松 美貴代氏

（内容）・鹿児島県の産婦健康診査事業（周産期メンタルヘルス体制）

- ・コロナ禍で妊産褥婦が受けた影響
- ・令和元年、令和3年の産婦健康診査の結果
- ・産後ケア事業の全国調査と県内の状況から
- ・分娩と助産師
- ・これからの助産師として



産後うつは妊娠中からの不安も大きく影響しており、生まれた児の情緒面にも強く関与していることがわかりました。鹿児島県では2018年から産婦健康診査事業が開始しましたが、コロナ禍で感染への不安や産後のケアが十分に受けられない不安、生活の変化に対する不安など強くなる中で産後健診の受診率は上昇してきていることがわかりました。

産後1か月健診以降も産後うつなど発症しやすいため、母親のメンタルヘルスの重要性を学びました。また産婦人科、小児科、精神科医療機関、行政が連携して妊娠から子育て期の切れ目のない支援、連携体制を築くことの重要性を再認識する講演となりました。

国や地域からも助産師が期待されている中、私たちはこれからもそれぞれの部署、地域で母子とその家族のためにできることを考え、寄り添っていきたくと思いました。

